

「エコエイジ」ブランド立ち上げる

王子製紙株は、地球環境と共に存しながら紙をつくり続けるというコンセプトのもと、「エコエイジ」ブランドを立ち上げた。従来同社は、古紙を活用し「紙のリサイクル」に対応した「エコクリーンシリーズ」と、環境に配慮したフレッシュユ

ア地域において飛躍的に増  
加し、同社調査では二〇一  
五年には二〇〇五年対比九  
千四百万トス増え、四億六千  
万トスになる。この需要に対  
応するため、製紙各社・チ  
ップサプライヤーは植林を  
化石燃料由来のCO<sub>2</sub>排出  
量が増加するケースがあ  
る。また、「古紙一〇〇%の  
再生紙は古紙を配合してい  
ない紙に比べ、製造工程で  
紙選択肢を増やすサービス  
を図っている。  
で、同社では、環境対応を  
迫られている印刷会社の用  
紙選択肢を増やすサービス  
を図っている。  
同社は古紙を最大限に回  
拡大しているが、二〇一五

源である古紙を最大限利用しながら、如何にして排出するCO<sub>2</sub>を削減していくかに取り組むことが重要である。

は一概に言いがたくなつてゐる。同社は古紙利用技術の向上、代替エネルギーの導入等により、

・四倍の面積)を目標と  
している。これにより、王  
子はアレ

2010年度には30万ヘクタールの植林面積を目指している（同社が植林した森）

# 「地球環境と共生」へ

古紙は絶量  
回収した古紙は総量  
で最大限に利用することを  
前提に、古紙と環境に配慮  
したバージンパルプを用途  
に応じてバランス良く配合  
した製品群を揃える。

年には約五百万立方分の植林が不足するという。このような資源状況で古紙の利用が減ると、ますます森林資源の減少の危険性が高まることがある。言い換えれば、古紙を最大限利用することによって森林資源が節約でき、森林資源が地盤温帯化に与える影響が大きくなっている」という説がある中で、同社は古紙高配合品の生産を継続する。それは、古紙パルプの配合率に拘わらず、化石燃料由来のCO<sub>2</sub>は古紙パルプ製造工程で発生し

二〇〇四年下期では全体の五〇%近くを化石燃料が占めていたが、化石燃料から廃棄物燃料などの代替を進め、今年の上期では化石燃料だけでもみると二〇〇四年下期のCO<sub>2</sub>排出量の二〇%まで減少させている。こ

回社が使用する古紙の品質がだいに落ちてきている  
という。そのため、掲げて  
いる古紙利用率六二%が與  
界に近いのではという見方  
をしている。古紙の品質低  
下傾向があることから、現  
在、一層の古紙リサイクル

総量で最大限に利用すると  
いう同社の考えは、紙の製  
造工程でのCO<sub>2</sub>排出の削

各地での植林事業も積極的に展開している。同社における二〇〇六年度の植林額

で、非化石エネルギーへの  
転換や省エネ  
ルギー対策に  
より全体として  
CO<sub>2</sub>発生を抑制し、排出  
したCO<sub>2</sub>は植林により固  
定することで、環境に貢献す

も会社全体での古紙利用率を高めていく予定で、現六〇%にまでなっている紙利用率を、二一〇〇年までに六二%にまで高めうとしている。ちなみに日本全体での古紙回収率約七〇%であるが、回収が上がることによって禁

「エコエイジ」 プラ  
森のリサイクル  
エコフォレス

シリーズ

う。 同社は製品個別のCO<sub>2</sub>排出量多寡を議論するのでではなく、古紙を最大限利用し、用途に応じた適切な配

森と紙のリサイクル  
エコハーモニー